SCJ

Newsletter of Save the Children Japan

特集

教室から、未来が動き出す

海外事業 ― 基礎教育
国内事業 ― 東日本大震災復興支援事業



Vol. 67
Nov. 2015

Save the Children JAPAN

教室から、未来が動き出す。

読み書きや計算を学ぶだけでなく、子どもが持つ力を引き出し、
将来の可能性を広げるために、教育は重要です。
しかし今もなお十分に学べない
子どもたちがいるのはなぜでしょうか？
世界の教育事情と私たちの取り組みをお伝えします。







学校に通えない 1億2千万の子どもたち

世界には今、学校に通えない子どもが約1億2千万人存在します。※ 政府や国連、NGOによって過去数十年間にわたって改善の努力がなされてきましたが、なぜこれほど多くの子どもがまだ学校に通えずにいるのでしょうか。

学校に行けない子どものうち、その半数近くは紛争地にいる子どもたちとされています。シリアのように長期にわたる紛争が生じている国では、子どもの教育に深刻な影響が出ています。また、近年多発する自然災害によって学校が避難所になってしまい、子どもが勉強できなくなる事態も生じています。他にも貧困のため、働いて家計を助けるために学校に通えない子どもも数多く存在します。女の子の状況はさらに深刻で、南西アジアでは、学校に通っていない子どもの57％が女の子です。



学校に通っているのに 知識が身に付かない

2000年に国連総会で採択された「ミレニアム開発目標」で、2015年までにすべての子どもが小学校を修了することが目標の一つに掲げられました。これを受け多くの国で、貧困家庭の子どもも学校に通えるよう授業料の徴収が廃止され、学校に通う子どもの数は増加しました。しかし貧困国の多くでは、教室の整備や教員の増員といった準備をせずに子どもの就学を促した結果、教室に生徒があふれ、十分な資格を持たないまま教壇に立たねばならない教員も増え、教育の質が急激に悪化しました。

アフリカの中には人口成長率が高く子どもの数の増大に学校整備が追い付いていない国もあります。また、教室の増設や教員数の拡大で就学率はある程度上昇させることができても、遠隔地に住む子ども、言語の異なる少数民族の子ども、障害のある子どもが学校で学ぶためには、今までよりも一層きめ細やかな支援が必要です。

今年の9月に開かれた国連総会では、ミレニアム開発目標の後継である「持続可能な開発目標」が採択されました。※2。この新しい国際目標の中で、教育の目標は、「2030年までにすべての子どもが質の高い初等教育と中等教育を受け、一定の学習成果を達成すること」という野心的なものになっています。

セーブ・ザ・チルドレンは、今まで世界約90か国で教育支援事業を展開してきました。教育の質の改善のためには、学校や教室の整備だけでなく、子どもが十分に理解できるように先生が教えられるかどうかが、大きな課題となっています。



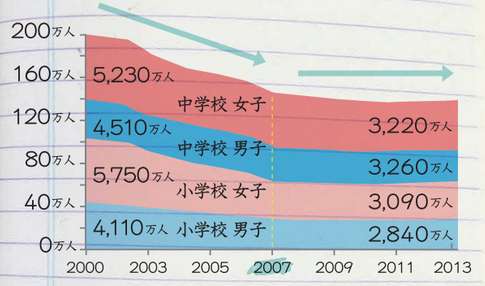
爆撃を受け閉鎖されたガザの学校

貧困や紛争などの理由で、
後発開発途上国では
6～7割の子どもが
中学校に通えていません。

学校に通えない子どもの数は
減ってきていましたが、リーマンショックによる
教育支援に対する資金削減で、
2007年以降横ばいに。

学校に通えない子どもの数は横ばい

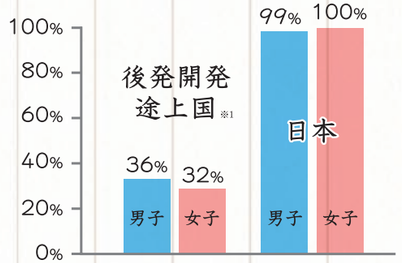
（世界合計）



出展：ユネスコ統計研究所

日本と比べると？ 中学校に通える子どもの割合

就学適齢者に占める率 /2009～2013



出展：ユニセフ「世界子供白書 2015」

※学校に通っていない6～15歳の子どもの人数（ユネスコ統計研究所調べ）　■ページ内の文具・教材はネパールとモンゴルの子どもたちが実際に使っているものです　表紙：エチオピアの小学校

※1：国連が定めた分類の一つで、開発途上国の中でも特に開発が遅れている国々を指します。　※2：「持続可能な開発目標」の詳細は5～6ページをご覧ください。

分かった！が聞こえる教室に

ネパールから

24＋6＝210？できないのは子どものせい？

今年の4月に地震に襲われ多数の死傷者が出たネパール。多くの学校も地震で崩れてしまいました。

ネパールはアジア最貧国の一つで、カースト制度や女性差別という社会的、歴史的な背景から女子の就学率がきわめて低い状況でしたが、国際機関やNGOの働きかけもあり、過去15年間で女子の就学率は上昇しました。しかし、多くの子どもや若者が、生活や仕事に必要な基本的な読み書きや計算能力がないまま学校を卒業しているのが現状です。

ある日の算数のテストでのことです。「24＋6は？」の問いに「210」と答える子どもたちがいました。先生は「なぜこんな簡単な計算を間違えるのか」「努力が足りない」と怒ります。「脳に問題があるのではないか」とあきらめる先生もいました。

先生にとって関心があるのは、自分の生徒の答えが正しいか間違っているか、何点取ったか、ということで、「なぜ間違ったのか」には十分に目が向いていなかったのです。

セーブ・ザ・チルドレンの支援で変わった授業







子どもと一緒に考える先生に



「今まで子どもが間違えるのは子どものせい、と考えがちでした。テストのおかしな答えを見て、教員室で笑っていたこともあります。でも一連の研修を受けて、先生がきちんと指導すれば、子どもはそれに反応することが分かりました。生徒たちは自分で直す力を持っているということを、私たちは知ることができました」

ある校長先生はこう語ってくれました。

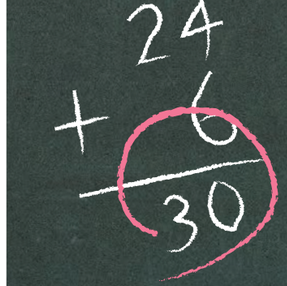
セーブ・ザ・チルドレンは、そんな先生たちのための学びの機会を作りました。子どもの答えが間違っているときは、なぜ子どもがそのように答えたのか先生自らが考え、授業に反映させることを推進しました。

「24＋6＝210」と答えた子どもは、計算が全くできないのではありません。1桁の計算まではできるものの、繰り上がりのある計算でつまづいているのです。

「子どもが悪いのではなく、自分たちの教え方に問題があるのではないか―」。研修に参加した多くの先生たちが、授業を変えなくてはならないと気づきました。これからの授業をどう変えたらいいのか、先生たちはセーブ・ザ・チルドレンと共に教授法の改善計画を作り、今、一歩ずつ授業の改善が進んでいます。



塩畑真里子
（海外事業部教育マネージャー）









どこで間違ったか、
一緒に
考えることを
進めると…

どう教えると
分かりやすい
だろう？

持続可能な開発目標

「誰一人取り残さない」世界を目指して

国連で新しい目標が決定！

2015年9月25日、ニューヨークの国連総会は興奮に包まれました。この日の特別サミットで、今後15年間の世界の共通目標である「持続可能な開発目標」を含む、「我々の世界を変革する―持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されたのです。「持続可能な開発目標」の17目標と169ターゲットは、社会、経済、環境の課題を統合し、真の「変革」を目指すこれまでに前例のない目標になりました。



様々な意見を反映

この目標が決められた背景には、このままでは地球が持続不可能になるという強い危機感があります。これまでに約3年間をかけ、各国政府や国際機関のみならず、世界中の市民社会や企業、研究者などが意見を投じてきましたが、セーブ・ザ・チルドレンもすべての子どもの権利の実現に向けて積極的に関わりました。サミットには世界中から約20人の子どもたちが参加し、その声を国連事務総長や各国首脳に届けました。

最も貧しい子どもを優先

「持続可能な開発目標」のターゲットの中には、「子どもの栄養不良を終わらせる」、「予防可能な子どもの死亡をなくす」、「女性・女児への差別を終わらせる」、「児童労働をなくす」、「子どもに対する暴力を終わらせる」といった子どもに直接関係するターゲットが数多く入っています。最も重要な特徴は、策定の中でも繰り返し強調されてきた「誰一人取り残さない」という理念で、これは「国連子どもの権利条約」の差別禁止の原則とも深く関係しています。しかし、「誰一人取り残さない」ことは、これまでと同じやり方では達成はできません。貧しさや不平等の根本原因まで掘り下げ、これまで支援が難しいとして焦点が置かれてこなかった最も貧しい子ども、社会の隅に追いやられてきた子どもを誰よりも優先させる必要があるのです。そのためには、データ収集や分析力を向上し、どこのどのような子どもが取り残されているのかを明確にし、不平等を解消するための政策や資金配分が不可欠となります。例えば、多くのアフリカの国々では国全体の乳幼児死亡率は改善していても、貧困層の子どもの死亡率は、富裕層の子どもの死亡率と比べて平均して約2倍高いのが現状です。手を差し伸べやすい子どもだけに着目していては、取り残される子どもたちはいつまでも取り残されたままです。

先進国も目標の対象に

「持続可能な開発目標」のもう一つ重要な特徴に、開発途上国だけではなく先進国も対象となるという点があります。ジェンダーの平等（目標5）、国内格差の是正（目標10）、災害に強いまちづくり（目標11）、持続可能な生産と消費（目標12）など、17目標の中には、日本が抱える課題とも関連する目標が数多くあります。国内の子どもの状況に目を向ければ、相対的貧困率16・3％と、子どもの約6人に1人は貧困状態にあり、虐待による子どもの死亡は年間50件を超えるなど深刻な状況です。遠い国の課題ではなく、自らの問題としての関わりが求められます。

「誰一人取り残さない」ことは、日本政府もこれまで国際交渉の場で支持を表明してきました。かけ声だけで終わらせてはなりません。私たち市民社会もまた、政府や企業、研究者との連携を強め、目標達成に向けて何ができるかを考え、行動に移すことが求められています。

ニューヨーク 国連総会レポート

この目標の策定に関わってきたアドボカシー担当の堀江由美子が国連総会に参加。外務省・NGO・民間セクター・アカデミアによる共同記者会見ではNGOのスポークスパーソンとして登壇しました。





持続可能な開発目標 17目標 一覧はこちら！





国へ、世界へ伝えたい！

東北の子どもたちからの提言

東日本大震災復興支援事業として、2011年5月から子ども参加によるまちづくり事業を行っています。その一環として、2015年8月、岩手・宮城・福島県の子どもたちが、より良い復興や防災に向けて国や国際社会の政策決定者に子どもの意見を届けました。

国へ！

これまでも子どもたち自ら市町や県、国へ提言をしてきましたが、子どもたちは一貫して「子どもも復興に対して意見を伝え、参加できるようにしてほしい」と求めてきました。そこで震災から4年半を前に、小・中・高校生37名がその思いを提言書にまとめ、8月3日、復興大臣へ提出しました。

提言書

東北の子どもたちの声
～みんなが主役のまちづくり～

1. 私たちは、気軽に参加できるまちの復興のために話し合いできる場や、そこでの成果を発表する場を必要とします。

① 子どもまちづくりクラブ※1のような定期的に行われるグループ活動をもとめています。
② 東北子どもまちづくりサミット※2のような全国の子どもとおとなが対等な立場で話し合える場所が必要です。
③ 学校教育の中で学べる場がほしいです。

2. 子どもが復興に向けて意見を発信したり、そういった機会や場に参加するためには、おとなの理解をはじめとする様々な環境を必要とします。

① 私たちは保護者の理解を求めています。
② 子どももおとなも理解しあうための時間や機会が必要です。
③ 子どもとおとなが対等に話せる場がほしいです。
④ 情報量の差をなくすために、復興に関する情報を分かりやすく教えてほしいです。

※詳細はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのウェブサイトにて「提言書2015」で検索



子どもたちの具体的な提案のつまった提言に、「復興庁のホームページで子どもたちの活動を紹介していく。また、学校教育の中で機会をつくれるよう検討していく。さらに、こういった話し合いの場をつくり、情報をしっかり入手するための会合の場やわかりやすいニュースレターの作成もしていかなければならないと思う」と復興大臣。さらに「世界で一番苦しい思いや経験をしたみなさんの中から世界に通用する人が必ずでてくる。私たちはそんなみなさんが世界に向かって飛び出していけるように環境をつくっていきたい。これからも地域のおとなをどんどん巻き込んで、素晴らしい東北をつくっていってほしい」とエールが送られました。

※1：子どもたちが、子ども同士だけでなく行政、地域住民、専門家とも話し合いながら、まちづくりに取り組む活動　※2：子どもたちが復興に向けた思いや意見を発表し、全国の子どもやおとなが一緒に話し合う活動

世界へ！

東日本大震災の経験やこれまでの活動をもとに、これまで計5回の国際会議を通じて、国際社会に声を届けてきた東北の子どもたち。8月29日の国連事務総長特別代表（防災担当）ワルストローム氏との対談には中高生7名が臨みました。



中3・女子

被害を防ぐために、地域の若者とお年寄りが日頃からつながりをもち、災害時に一緒に避難したらいい。震災後自分の身の回りの人が亡くなってしまった人は、いくら地域が復興しても、心は立ち直れないまま。これからの復興には、地域の人の心の復興も伴わなくてはいけない気がする。



高2・女子

原発事故って何っていう状態で避難して不安でいっぱいだったので、せめて自分の地域の情報を小さい子からお年寄りまでちゃんと伝えてほしい。そして、避難していた時もいまも風評被害はあるけど、福島に足を運んだり、福島の人の話を聞いたりして知ってほしい。



中1・男子

今、自分たちは子どもまちづくりクラブに入って復興について知り、自分たちでより良いまちにするためにアイデアを出している。だから、学校で、子どもまちづくりクラブの活動を参考に、防災や復興について話し合ったり、何か起こった時には子どもとおとなが一緒に話し合ったほうが、復興がすすむと思う。



ワルストローム氏

みなさんは物理的な復興だけではなく、社会的、心理的な復興を大切だと感じているのだなと思いました。だからこそ、情報へのアクセスや復興のプロセスに参加することを大切だと思っているのですね。みなさんの活動が世界中の子どもたちに勇気を与えることでしょう。今年3月に仙台で行われた第3回国連防災世界会議で合意された仙台防災枠組には、その一つの大きな柱として、"build back better"ということが明記されています。復興の過程でより良いまちをつくるということですが、なかなか今まで実例というのがあまりなかったので、ぜひ、みなさんの活動を通じて、より多くの人に知ってもらえたらいいなと思います。



「卒業後は大学で地域活性や復興のための勉強をして、その後、地元の防災やまちづくりに携わりたい」「農業改良普及員として、人と関わりながら、ストレスや不安なことがある方たちの心のケアをやりながら、地域の農業の活性化にも関わっていきたい」等と将来の夢を語る子どもたち。おとなや社会が、復興や防災ついて子どもたちが意見を伝え、参加できるようにする機会をつくることで、子どもたちは東日本大震災を乗り越え、地域の一員として主体的に行動するようになれるのではないでしょうか。

SCJ広場

同封の封筒でお送りください



未使用はがき・書き損じはがきキャンペーン

買いすぎて余ってしまった年賀状や、書き間違えてしまった未投函の官製はがき、お手元にございませんか？これらは換金のうえ、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動費として大切に活用いたします。他にも未使用の切手や未使用のテレホンカードを集めています。同封の専用封筒でぜひお送りください。皆さまのご協力をお待ちしています。



ご協力ありがとうございました

昨年の呼びかけに応じて2015年度に皆さまからお送りいただいたはがきや切手等は、換金のうえ2,024,666円の活動費になりました(9月末時点)。はがきや切手の整理には、多くのボランティアさんにご参加いただきました。皆さまのあたたかいご協力に感謝いたします。



イベントレポート

グローバルフェスタ JAPAN 2015に出展



秋晴れの10月3日(土)・4日(日)、日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN」に出展しました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのブースではモンゴルの羊の骨を使った占いなどのアクティビティで大盛況！楽しみながら活動を知っていただく機会になりました。

大阪で事業報告会を開催



10月15日(木)、大阪で報告会「学校が変わる！未来が変わる！～ネパール教育支援の現場から～」を開催しました。3年間駐在した塩畑真里子が、子どもたちの様子や現地での取り組みを報告。ゲストを交えて国際協力の多様な関わり方を考えるパネルディスカッションも行いました。

相続財産寄付・遺贈のご案内

尊い思いを世界の子どもたちに届ける、相続財産寄付や遺贈へのお問い合わせを多くいただいています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは内閣府より認定を受けた公益社団法人です。相続された財産から当法人にご寄付いただいた場合、ご寄付いただいた財産には相続税が課税されません。遺言による、当法人へのご寄付(遺贈)にも相続税は課税されません。

ご注意

●原則として、現金寄付のみの受付とさせていただきます。●相続税の申告は、期限(死亡の日から10ヶ月以内)までに行ってください。●ご寄付をいただいた方には、当団体から領収証と内閣府発行の公益社団法人証明書をお送りいたします。お問い合わせ:03-6859-0068(平日9:30～18:00)

©Jiro Ose, Susan Warner, Hedinn Halldorsson, Colin Crowley, Anas Baba, Ahmad Baroudi / Save the Children

PARTNERSHIP INFORMATION

パートナーシップインフォメーション



世界に一つのトートバッグを。チャリティーイベントは9年目に。

株式会社スーパープランニング
代表取締役
神谷 敬久 様

ROOTOTE(ルートート)は株式会社スーパープランニングが運営するトートバッグ専門ブランド。2007年より毎年開催されているチャリティーイベントを通してご支援いただいています。

「『そもそもトートバッグは“キャンバス”素材でできているのだから、それ自体が絵を描くための“キャンバス”であってもいいのではないか？』きっかけは社員のそんな発想でした」。そう神谷社長が話すのは、トートバッグ専門ブランド ROOTOTE（ルートート）のプロダクト「トート・アズ・キャンバス」。無地のトートバッグに思い思いの方法でアートを表現することを楽しみます。合わせてチャリティーイベントが開催され、著名人がアートワークを施したトートバッグをオークションで販売し、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動にご支援いただいています。「チャリティーはブランディングの一環として始めましたが、継続して行うことで定着してきました。スタッフにとっては、ビジネスとして物を売るだけでなく社会貢献をしていることで、モチベーションが上がっているようです」。9回目を迎えた今年のチャリティーイベントでは、4,521,627 円のご寄付をいただきました。



パートナー企業のお知らせ

ソフトトイを通して世界の子どもたちに教育を

イケア・ジャパン株式会社は今年も「ソフトトイキャンペーン」を開始しました。今回はコンテストで入賞した子どもたちのデザインしたぬいぐるみが販売され、1個の売上に付き1ユーロがセーブ・ザ・チルドレン等に寄付され、世界中の子どもたちの教育支援に役立てられます。



楽天クラッチ募金でミャンマー洪水緊急支援

支援を必要としている人に、皆さまの想いを届ける楽天クラッチ募金。7月にミャンマーで発生した大洪水被害では、影響を受けた子どもや家族の支援活動のため楽天クラッチ募金を通じてご支援いただきました。これからも、誰でも簡単に募金活動に参加できる方法で世界中へ支援活動を展開されます。



子どもたちに安心・安全な衛生環境を

レキットベンキーザージャパン株式会社は世界中のセーブ・ザ・チルドレンとともに世界各地で衛生環境の改善に取り組んでいます。2016年1月には、メディキュット製品1商品購入につき100円がセーブ・ザ・チルドレンに寄付されるキャンペーンも実施されます。



冬の募金にご協力ください

紛争や災害により困難な状況を生きる子どもたちにとって、皆様のご寄付は命をつなぐ力になります。
あたたかいご協力をいただけますようお願いいたします。

たとえば 約5,000円で 突然の避難を余儀なくされた人々に、身体をあたためる毛布を10枚届けることができます。

たとえば 約10,000円で 避難先の赤ちゃんに、布おむつやおくるみなどの新生児用品を1セット提供できます。

たとえば 約30,000円で 真冬の仮設教室をあたためるストーブ1台と春までの燃料を提供できます。

詳しくは同封のお知らせをご覧ください。

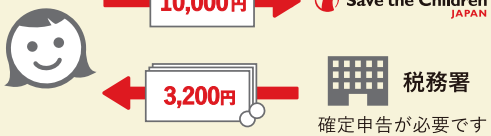


シリアから難民となり逃れてきた2歳の子ども

税の控除を受けることができます

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは内閣府より認定を受けた公益社団法人です。当法人への寄付は、確定申告をすることで所得税の控除を受けることができます。

例えば10,000円寄付すると・・・



所得税3,200円が戻ります（寄付金-2,000円）×40%

「SCサポート」継続ご支援者の皆さまへ

年度領収証をお届けします

2015年度の年度領収証は、今年12月末までにいただいた寄付金の合計金額を記した証明書をお付けして、確定申告に間に合いますよう2016年1月下旬までに登録のご住所へお届けいたします。

住所のご変更をお知らせください

確実に領収証をお届けするために、ご住所の変更がある場合は2015年内にメールまたはお電話にてご連絡をお願いいたします。

※確定申告は、過去5年前にさかのぼって申告が可能です。過去の領収証の発行をご希望の場合も下記までご連絡ください。

メール　donation@savechildren.or.jp
電話　03-6859-0068（平日9:30から18:00）

編集後記

グローバルフェスタで好評だった、モンゴルの「羊の骨占い」。羊のくるぶしの骨を４つ転がして、出た面の組み合わせで運勢を占います。32通りある結果はなかなか味わい深いもの。「かなり努力すれば成功します」「『今は』運が少ないです」。解釈しだいで、どの結果も良い未来につながりそうです。（編集担当：高橋哲子）

Save the Children JAPAN
発行：公益社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4　山田ビル 4F
ご支援に関するお問い合せ：03-6859-0068（平日 9:30-18:00）　2015 年 12 月発行